

## 令和6年度平戸市美術展覧会 審査講評

工芸の部                      審査員氏名( 石添 秀正 )

令和6年度平戸市美術展覧会における出品数は、一般12点、小中学生は83点であり、昨年より5点多い出品数であった。

工芸はジャンルが広いので作品の比較がしにくい。また、工芸は素材を生かす技術がなければ成り立たない部門であり、それを無視する事は出来ない。作品を作る上で留意することは想像力であり、現代性であり、それにより作品の完成度が決まる。

平戸市長賞は陶器の作品でロクロ成形と黄茶マットの彩色で暖かい雰囲気にとまっております、落ち着いた作品となっている。

小中学生の作品は発想が夢豊かである。

読売新聞西部本社賞は森の奥のステキな家と題して、自然の材料を駆使して夢のある想像の家に作り上げた成果が伝わってきて、見ごたえのある作品となっている。

全体的に、他の賞作品、入選作品共に工夫された作品である。